



DH SYSTEM
大日本塗料株式会社

商品番号 192511

SDCコート#402TエコG

1. 一般名 タールフリー変性エポキシ樹脂塗料
2. 規格 機械工事塗装要領 (案)・同解説
3. 特徴
 - 1) JIS G 3443-4:2020 付属書A、JWWA K 115:2018 の塗料の組成および塗膜の品質を満たす。
 - 2) エチルベンゼンやメチルイソブチルケトン等を含めた特別有機溶剤を含まない。
 - 3) ビチューメンとして特殊膨潤炭を使用。コールタール分を含まない。
 - 4) 従来のタールエポキシ樹脂塗料よりも上塗りブリード性が少ない。
 - 5) 耐水性・耐海水性など、防食性がすぐれている。
 - 6) エアレススプレー性に優れ、1回塗りで厚膜塗装が可能である。
 - 7) 物理的性質、化学的性質がすぐれている

4. 塗料性状

項目	内容				
容姿	2液性				
荷姿	20kgセット (A液:17kg、B液:3kg)				
色相	黒、さび色				
光沢	5分つや				
密度 (23°C)	塗料	1.37 (黒)			
	揮発分	0.85			
加熱残分	73% (黒)				
乾燥時間	温度	10°C	20°C	30°C	40°C
	指触	120分	90分	75分	50分
	硬化※	36時間	22時間	16時間	8時間
標準膜厚	300μm (エアレス)				
引火点	SDS参照				
発火点	SDS参照				
爆発限界(下限~上限)	SDS参照				

上記塗料性状の数値は標準を示すものであり、若干の変動がある。
※歩行及び厚膜測定可能な目安となる時間を示す。

6. 施工上の注意

- (1) 高粘度品のためキャップ (蓋) から出にくい場合があります。その際は、容器の天蓋を切ってご使用下さい。
- (2) A液とB液を規定の割合に混合し、十分に攪拌して均一な塗料状態にする
- (3) 一度に厚く塗りつけるハイビルドタイプの塗料である。刷毛さばきをよくする為の過度の希釈や必要以上に伸ばして塗装することなく所要量を塗布し、膜厚保持に努める。
- (4) A液とB液を混合した後は可使用時間以内に使い尽くすこと。
- (5) B液が皮膚についた時はまずシンナーで洗い、つぎに石鹸水で洗う。
- (6) SDCコートシンナーGまたはSDCコートエコシンナー以外のシンナーは使用しない。
- (7) 非特定化学物質型対応が必要な場合、SDCコートエコシンナー以外のシンナーは使用しない。
- (8) 塗装終了後の使用機器は直ちにSDCコートシンナーGまたはSDCコートエコシンナーで十分に洗浄する。一度硬化すると再びシンナーでは溶解しなくなる。
- (9) 冬期気温が低い場合 (10°C以下)、希釈・洗浄はSDCコートエコシンナーを使用する。また、塗料の硬化反応がほとんど進まず乾燥が遅れるので塗装間隔は十分注意する。

5. 塗装基準

項目	内容			
素地調整	プラスト ISO-Sa2 ¹ / ₂ (SSPC-SP10)			
調合法	A液:85部、B液:15部 (重量比)			
可使用時間	10°C	20°C	30°C	40°C
	8時間	6時間	4時間	2時間
気温・湿度制限	気温:10°C以下、湿度:85%RH以上			
使用シンナー	SDCコートシンナーG又はSDCコートエコシンナー			
塗装法	塗装方法	刷毛・ローラー塗装		エアレス塗装
	希釈率	0~10%		0~10%
	参考使用量*	170g/m ²		450g/m ²
	参考膜厚*	75μm		150μm
	ウェット管理膜厚	150μm		300μm
エアレス塗装条件	9.8MPa以上 (100Kg/cm ² 以上)			
	グラコチップ GGO-019~029			
塗装間隔* (20°C)	最小	1日		
	最大	10日		

注) ※は「機械工事塗装要領 (案)・同解説」による。

7. 関連法則

	A液	B液
危険物表示	第4類第1石油類	第4類第1石油類
有機溶剤区分	第2種有機溶剤等	第2種有機溶剤等
有害物質表示	SDS参照	SDS参照
劇物表示	—	—

8. 使用上の注意 [警告]

- (1) 安全情報に関する内容は、SDSをご参照下さい。

使用上の注意の詳細は容器のラベルに表示。